

とうきょう すくわくプログラム推進事業について

令和6年度から東京都の事業として「とうきょう すくわくプログラム推進事業」が展開されています。

「すくわく」とはすべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探究心（わくわく）」の意味で、これらを応援する東京都独自のプログラムとなっています。

東京都のこの事業は、令和11年度まで継続される予定であり、年度ごとに計画や目標を立て、保育園の全ての子どもたちの「すくすく」「わくわく」を応援していきます。

当園ではこの制度を活用し、子どもたちの探究心を育むような各種事業を展開していく予定です。



令和6年度の実施状況等について

当園では「とうきょう すくわくプログラム推進事業」制度を活用し、「植物の成長と変化」、「光や色の不思議」、「砂粒や石の観察」など、日常何気なく接している世界の中で、新たな気づきや発見を得られるよう、子供たちに、いつもとは違う見方もあることなどのヒントを与え、考えるきっかけ作りに努めました。

乳児と幼児では感じ方や気づきも異なりますが、「変化」や「不思議さ」を感じ取った時の驚きや歓声など保育活動の中に新たな刺激が加わったものと確信しています。

また、当園の園庭は、樹木は少しばかりあるものの、植物や野菜の植栽・栽培場所がなく、プランター等の活用で対応せざるを得ない状況が続いていました。

さらに南園庭の崩れかかった築山も悩みの一つであり、この「とうきょう すくわくプログラム推進事業」の展開により、南園庭の崩れかかった築山の改修工事にも着手することができました（補助金の大部分を改修工事に充てました）。

これにより南側園庭の今後の活用幅が広がっていくとともに、活用方法については、屋外探究・観察場所の確保、人工芝化、雨や日よけシェード等の設置、植栽・栽培場所の確保等についても、状況を確認しながら進めていく予定です。



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0461
施設名	青梅みどり第一保育園
施設所在地	青梅市師岡町4-8-8
法人名	青梅みどり福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ① 植物の成長と変化
- ② 光・色・石など身近なものの不思議

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

現状の植物は園庭の樹木数種類のほか、草花や野菜等の植栽場所はプランター等に限定されているため、プランターを最大限利用して花や野菜類を栽培し、成長と変化を探究した。また、園庭の崩れかけた築山の改修により、今後の子どもたちの安全な探究場所の確保に努めるため改修工事を行った。また砂場の砂、園庭改修後の土や砂も探究の題材となった。

2. 活動スケジュール

令和6年度については下記のとおり

- ① 植物の成長と変化 5月上旬からプランター等の準備を行った。すくわく活動としては7月から3月までの期間
- ② 光・色・石など身近なものの不思議 2面ある園庭のうち1面の改修工事については12月および1月を工事期間とした。観察・探求については11月から3月までの期間

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

工事を含む環境の整備は今後も継続していく。(園庭の日陰の部分の創出や寝転がって観察できる環境づくり)

6年度については、購入物品は栽培用土、苗、画用紙、色鉛筆、絵の具、不織布、ほか環境の設定はまだ十分ではなく上記のとおり日陰の創出や園庭で寝転がれる場所作りを行う

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 植物の成長と変化 園庭の樹木の成長、葉や花の変化、紅葉、落葉等、季節ごとの観察により変化に気づき探究すること。プランターでの野菜栽培やひまわり等の栽培（種まきや苗植えからナスやトマト、キュウリ等の収穫および、ひまわりの種の収穫、収穫後の枯れていく様子や変化の気づきと探究。また、南側園庭を今後のすくわく事業で利用しやすくするため、築山の崩れの改修工事を行った。
- ② 光・色・石など身近なものの不思議 園庭の石や砂の観察を中心に行う。よく見るといろいろな形や色がある。光が当たるとどう見えるか、水にぬれるとどう見えるか。砂の中に小さな貝殻があったり、砂の粒でもいろいろな色があったり、小さな世界を子供たちの目で観察し、子どもたちの気づきと探究心の育成に務めた。また、不織布を使った造形物に光を当てるなどし

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

集中する真剣さ、発見する驚き、友だちや先生に伝える喜び等、子供たちの生き生きとした姿や歓声とともに、集中する時は私語も少なくメリハリのある取り組みができた。発見や気づきとともに不思議さへの探究心も育っていくものと感じる。園児の気づきや発見に保育者も喜び園児を褒め、今後の活動が発展できるような関わりに務めた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

担任からは、身近にあるものは何でも題材になり、新しい発見につながり探究心が育つのではないかとの声があった。じっくり観察することで探究心とともに集中力も養えると考え。今後につなげて探究活動を推進していきたい。

南園庭築山撤去工事前



撤去工事後

